

2017年6月25日(日)朝10:10
6月第4回共同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第4、ギデオン等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：7つの金の鉢；金の鉢

聖書：ヨハネの黙示録 15章5～16章1節

＜口語訳＞

新約聖書401頁

ヨハネの黙示録 15章5～16章1節

＜新共同訳＞

新約聖書469～470頁

ヨハネの黙示録 15章5～16章1節

＜新改訳第3版＞

新約聖書493頁

ヨハネの黙示録15章5～16章1節

＜塚本訳＞

新約聖書808～809頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讚美、6～9章は、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、13章は、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、福音啓示と諸国への裁き、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の刈りと天の穀倉への格納、神の怒りの葡萄刈りと酒槽投入、15章1節は、金の鉢による神の最終裁き、2～4節は、16章からの金の鉢による神の最終の裁き後の神の祝福への序曲です。

◇ヨハネの黙示録15章5節～16章1節は、神の怒りの満ちた金の鉢の用意と神の聖所からの命令のことばです。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第15章5節～16章1節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録15章5節；ヨハネは、あかしの幕屋の聖所が開かれるのを見ました。

◇15：5～16：1；塚本訳◆7人の天使に金の鉢を渡す

「5 この後また私は見た。天にある証の天幕の聖所が開かれ、」と、ヨハネは、天にあるあかしの幕屋の聖所が開かれるのを見たのです。

◇5節；「天にある証の天幕の聖所」が、「開かれる」幻には、ヨハネの1つの思いがあり、大祭司しか入ることをゆるされない神の至聖所でした。

⇒「天にある証の天幕の聖所」は、通常、神の臨在を示す場所ですが、黙示録11：19の光景、神の激しい怒りが、ヨハネには連想されたのです。

◆ 黙示録15章6～8節;ヨハネは、あかしの幕屋の聖所での金の鉢の受け渡しを見ました。

◇ 15:5～16:1;塚本訳 ◆ 7人の天使に金の鉢を渡す

「6 七つの災厄を持つ七人の天使が聖所(の中)から出て来た。(彼らは)輝いた潔い麻の衣を纏い、胸には金の帯を締めていた。

7 すると四つの活物の一つが、永遠より永遠に生き給う神の憤怒の盛られた七つの金の鉢を(この)七人の天使に渡した。

8 (たちまち)聖所は神の栄光とその権能からの煙で一杯になった。そして七人の天使の七つの災厄が終わるまでは、誰も聖所に入ることが出来なかった。」と、ヨハネは、天にあるあかしの幕屋の聖所での金の鉢の受け渡しの状況を見たのです。

◇ 6～8節;「七つの災厄を持つ七人の天使が聖所(の中)から出て来た。(彼らは)輝いた潔い麻の衣を纏い、胸には金の帯を締め」、「四つの活物の一つが、永遠より永遠に生き給う神の憤怒の盛られた七つの金の鉢を(この)七人の天使に渡し」た後、「聖所は神の栄光

とその権能からの煙で一杯になり」、「七つの災厄が終わるまでは、誰も聖所に入ることが出来なかった」という、「神の怒りの金の鉢」の受け渡しと「天にある証の天幕の聖所」に「神の栄光のしるしである煙」が満ち、「七つの災厄が終わるまでは、誰も聖所に入ることが出来なかった」という幻、神の裁きの予告が告げられるのです。

- ⇒「**金の鉢**」は、2つの目的で用意されていて、1つが犠牲の血を入れ、贖いの血を注ぐために用いられ、またもう1つのことは、神への祈りのしるしである香を注ぐため、香がもられたのです。
- ⇒歴代志下4:8では、ソロモンが金の鉢を100個も用意していたことが記録されています。
- ⇒「**金の鉢**」は底が浅く、横幅が広い皿のような器だったようです。
- ⇒「**天の聖所の金の鉢**」には、動物の血や香ではなく、**神の怒り**が盛られていたのです。
- ⇒その「**金の鉢**」には、「**災厄**」が、地上にもたらされる**神の権能**が盛られているのです。
- ⇒**神の聖徒**には、**神信仰**と**忍耐**が求められます。

◆ 黙示録16章1節;ヨハネは、あかしの幕屋の聖所からの声が金の鉢を地に投げるように命じるのを聞いたのです。

◇ 15:5～16:1;塚本訳 ◆ 7人の天使に金の鉢を渡す

「1 すると私は大きな声が聖所から(出て)七人の天使に(こう)言うのを聞いた、「行って、神の憤怒の(盛られた)七つの鉢を地に注げ！」と、ヨハネは、天にあるあかしの幕屋の聖所からの声が命じるのを聞いたのです。

◇ 16章1節;ヨハネは、「大きな声が聖所から(出て)七人の天使に(こう)言うのを聞いた」のですが、その声は、「行って、神の憤怒の(盛られた)七つの鉢を地に注げ！」でした。

⇒明らかに、黙示録16章2節から始まる神の最後の金の鉢による審判の序曲です。

⇒マルチン・ルターは、落雷に遭遇することを経験した時、「神の怒り」について気づき、聖書を調べ直し、「神の怒り」の陰に「愛の神」を発見し、エペソ2:3にあります「神の怒りを受くべき」者が、「神の怒り」回避の道を発見!

- ⇒それが、**神信仰**によって、**神の義**に与る道であったのです。ルターは、**神の恵みのみ、信仰のみ**を強調したとされます。
- ⇒「**善い義しい行いが善い義しい人をつくるのでは決してなく、善い義しい人が善い義しい行いをする**」という、ルターの名言を生み出したのです(OS師著、121頁)。
- ⇒マルチン・ルターは、「**受動的義**」に基本的に立ちつつ、すなわち恵みの神への徹底した受動に始まり、隣人に対しては、主体的に奉仕する自由人の「**キリスト教的自由人**」＝「**キリスト者**」を目ざしたのです。その思いを書いたのが、「**キリスト教的人間の自由＝キリスト者の自由**」でした。
- ⇒当時の位階制度の祭司職と対比し、**霊的身分としての祭司職**を主張、そこから、全てのキリスト者は、祭司であると、ルターは言ったのです。万人祭司制です。勿論、キリスト者の全てという意味で、人間全てという意味ではありません。
- ⇒受動的の徹底が、**神礼拝**であり、祭司職への徹底が、**隣人への愛の執成しの祈り**です。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」で、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通し(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録と理解。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讃美、6～9章は、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、13章は、獣との戦い、14章は、小羊への大讃美、福音啓示と諸国への裁き、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の刈りと天の穀倉への格納、神の怒りの葡萄刈りと酒槽投入、15章1節は、金の鉢による神の最終裁き、2～4節は、16章からの金の鉢による神の最終の裁き後の神の祝福への序曲です。

◇ヨハネの黙示録15章5節～16章1節は、神の怒りの満ちた金の鉢の用意と神の聖所からの命令のことばです。

⇒「**神の栄光の御座**」での「**24人の長老**」と「**4つの生き物**」の**神礼拝・神讚美**は、「**主キリスト・イエス様が天のみならず、地の上・この世でも、王となり給うたことを感謝**」する結末を与えられています。

⇒地上に今生かされています私たちも、「**神礼拝・神讚美**」は、この幻のように実現することを信じて、「**主がこの世の王となり給うたことを感謝**」すると、告白しています。

⇒「**死**」という最大の苦難を思う前に、「**恵みの約束の神**」に思いを向けたいと、願います。

⇒ヨハネ黙示録は、「**苦難**」先にある「**神の救い**」という「**神の恵み**」を見せ、また指し示します。

⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、「**神のようになる**」目的を放棄していませんで、「**天では**」、「**彼らの(いる)場所が無くなった**」のですが、投げ落とされた地上で、「**神礼拝者・神信仰者**」を「**訴える本務**」を放棄することはしません。

- ⇒**神は、144,000人の殉教者の訴える祈り、を聞き、「獣礼拝者・龍(悪魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々に「神の怒り」をもって、復讐して下さるのです。**
- ⇒**決して、神の怒りに先立ち、「獣礼拝者・龍(悪魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々を裁かず、むしろ、その罪・咎に気づけるように執成しをすることが求められています。**
- ⇒**多くの信仰の仲間の殉教を目にして絶望的になっている老使徒ヨハネに「今から後主にあって死ぬる死人は幸福である」、「彼らはその労苦を休息む(ことが出来る)」、「その(為した)業が彼らに随いて行く」と天から声と神の内住の御霊の声が与えられて、大きな慰めを神は与えて下さったのです。**
- ⇒**「穀物の刈り取り」、「主にある死人の勝利」は、「雲の上に人の子の再臨」のより実現します。**
- ⇒**その実現の時まで、神の聖徒に求められるのは、「神信仰と忍耐」(黙示録13:10、14:12)です。**
- ⇒**神のご計画は、時が来れば、事は行われる(237頁)のです。**

- ⇒14～16節では、**人の子なる神の御子**が、**死人の勝利**の刈り取りをしたのに対し、17～20節では、**第5の天使**、**第6の天使**による**葡萄の刈り集め**は、「**神の憤怒の大きな酒槽** (さかぶね)」に投げ入れるという結末が語る通り、**神の怒りの復讐**が啓示されています。
- ⇒茲でも、**神の聖徒に求められるのは、「神信仰と忍耐」**です。私たちに**神**が期待されるのは、①**神礼拝に忠実**であり、②**神が創造した全ての人間**が、**神のみことばである聖書**に**聴く機会**が与えられるように**執成し祈る**ことです。
- ⇒**黙示録15:1**の**天の大きな、驚くべき徴**は、**神に反逆する者への「神による最後の災厄・神の憤怒」**です。それは、想像を絶する時間の経過を必要とする通告ですが、**神の預言**は必ず成就します。
- ⇒**神の愛の律法・愛の福音**に聴き従い、**神礼拝**を通し、日々の**聖書のみことば**を静聴し、祈り、服従することを通して、「**神と隣人**」を愛し、「**最後の災厄**」から逃れる道を共に生きる**神の恵みの福音の道**をあかして生きたい！

◇15章2～4節では、**殉教者たちが、神の御座の前で、モーセが紅海渡渉を神の恵みとして神を讃美したように、申命記32章3～4節の聖句を用いて、神が罪から決別された存在であり、神が語られたことばを確実に実行されることを神讃美に託しているのです。**

⇒これから起きる大患難も、殉教者にとっては、**神が語られたことばに忠実であることを示される出来事として、神讃美の中身に含めているのです。**

⇒**神の裁き自体**を讃美しているのではなく、**神の真実**を告白しているのです。

⇒今日の教会に求められますのは、**神の真実**を告白する方法が、**神讃美**であるとともに、**神への執成しの祈り、神の赦しの恵み**が凡ての人々に与えられるようにと願うことなのです。

⇒「**神への祈り**」は、一般の人々からは空虚な働きに見えるかも知れませんが、「**主なる神よ、全能者よ、御業は大なるかな、驚くべきかな！**」なのです。

⇒どんな偉大な人間でも、**神の真実のわざ**を超えることはできないのです。

⇒ **黙示録15:5～16:1**では、「**天にある証の天幕の聖所**」が、「**開かれ**」、「**神の怒りの金の鉢**」が、「**7人の天使たちの手に**」渡されるのと、「**天にある証の天幕の聖所からの命令**」の声をヨハネは聴いたのです。

⇒ 今日の私たちは、「**神の怒り**」を「**金の鉢**」に盛らず、「**神の愛と赦しの福音**」を盛りたいと願います。